

## ■SMT<しづ・まち・探検>他の開催(青少年育成志津地区民会議・わんぱく協働高校)

### 1 【活動の趣旨】

地域の子どもたちが自ら地域の資源(宝物)を活用し、様々な活動を企画し体験することで地域への愛着心を育みながら次世代のリーダーを育成するとともに、体験した内容を地域内外に発信をおこなうことで、大人にも褒めてもらえる機会をつくる。

### 2 【特徴的な活動内容】

#### ○「子どもスタッフ会議・竹林活動・芋掘り体験」

1年間を通して自分たちがやってみたいことをお互い相談しながら計画を立てた。サポートは地域の方にレクチャーを受けながら、竹の伐採と竹細工製作、芋の植え付けから収穫体験までを行った。



【竹林活動・芋掘り体験】

#### ○「SMT(しづ・まち・探検)」

今年のテーマは「地域の防災」について、起震車体験と地域の防災倉庫見学。防災倉庫には何が入っているのか、防災倉庫の鍵は誰が持っているのかなどを確認し、万一の際に自らが情報を持っておくことで活用できるようになった。また、その後は非常食の試食体験を行い、調理時に必要な湯沸かしを枯葉や枝を使って火起こしをし、調理方法までを学んだ。



【SMT 防災体験】

#### ○「ツイストパンづくり」

毎年続けている非常食としても使える「ツイストパン」作り体験を行った。パン生地を竹に巻き付け個々に焼き加減の調整から試食をし、後日開催された志津ふれあい広場においてツイストパン作り体験ブースの運営を行った。



【ツイストパン作り】

### 3 【実施に当たっての工夫】

- ・今年度はコロナ対策を十分に配慮しながら、内容の工夫を行い、短時間での体験活動を中心に行った。
- ・子どもたちの活動においては地域の方の「話」を聞ける機会をしっかりと設け、交流を図れるようにした。

### 4 【事業の成果】

地域の様々な資源(宝物)を活用し、自らが企画立案と体験を通して自然や歴史に触れることができた。外部団体との交流においても仲間で「話し合う」「考える」という時間を多く取ることで、活発なコミュニケーションが図れた。わんぱく経験者の中学生、高校生も運営側スタッフとして参加し、リーダー育成環境の構築が確立しつつある。

### 5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

- ・アフターコロナにおける新たな活動の実施方法を検討
- ・さらに地域を巻き込んだ子どもが活躍できる環境づくり